

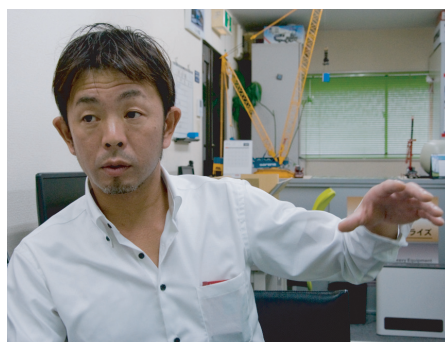


福岡と博多

福岡県福岡市。ここに株式会社サンキライズ（谷口昇社長）の本社がある。福岡市は人口約150万人の県庁所在地であり政令指定都市でもある。九州地方の行政・経済・交通の中心だ。江戸時代には城や武家屋敷がある那珂川の西を福岡と呼び、東を商人町民の町・博多と呼んだ。今でもJRの駅は那珂川の西にあるので博多駅という。

そんな歴史ある地に本拠を置く株式会社サンキライズの社名の由来は、谷口社長の父と叔父が立ち上げた有限会社小倉産業機械サービス（現：株式会社サンキテク）のグループ会社としてサンキを頭に付けた。サンキは産業機械を今風に転じたもの。ライズは、谷口社長の名前「昇」を英語にしたものだ。2007年に谷口社長が創業した社歴の若い会社だ。

しかし、その成長は目を見張るものがある。業務内容は、クレーン車など建設機械の1「販売」、2「レンタル」、3「買取り」の、3本柱だ。特に成長著しいのがクレーン車のレンタル事業で、現在では約120台のクレーン車を保有している。レンタル事業とは、クレーンリース会社をメイン顧客にクレーン車のみを貸すことだ。クレーンリース会社は、必要な時に必要な機種を必要な期間だけ借りて工事現場にオペレータとともに提供する。実に合理的なシステムである。



▲株式会社サンキライズ 代表取締役 谷口 昇 様



▲博多駅



サンキライズ

サンキライズ本社にお邪魔して谷口社長、スタッフの松田さんに話を聞いた。

谷口社長「顧客のニーズを自然に、一生懸命に聞いているうちに様々なスタイルができあがっていったのです。大切にしているのは、何よりも顧客との信頼関係です。その信頼関係は、誠実・迅速な対応によって醸成されるものであり、その結果として今のサンキライズの姿になっているのですね。」

数々の取引実績を信頼関係の結果だという。実は谷口社長は、コベルコ建機でサービスマンとして長年働いていた。その経験から深い知識と技術、そして幅広いネットワークを持っているのだ。独立後は、全メーカーと取引をするうちにwin-winの関係が築けるタダノとの取引が多くなったという。

松田様「今、約120台のレンタル機がありますが、その60%強、約80台はタダノ製です。自然にそうなってしまった一面と、うちの社長が、タダノが好きだからそうなってしまったという二面があります（笑）。」

HELLO-NET とトータルサポート

宮本「谷口社長は、とにかくクレーン車が好きです。好きだからこそ知識も情熱も半端ではありません。こちらも負けずに一生懸命です。そのような谷口社長ですから、製品そのものやサービスはもちろんですが、HELLO-NETなどトータルでサポートしていきたい。お互いに何でも言い合える良い関係を継続し、発展してまいりたい。」と気を引き締める。



▲株式会社タダノ 九州支店大型営業グループ 宮本真吾

谷口社長「レンタル事業は、貸したら終わりではありません。本当の付き合いは、貸してから始まるのです。日頃のメンテナンスや修理対応が重要です。クレーンが120台あると、修理やメンテナンスに10年で少なくとも10億円もの資金が必要になります。慎重に機械を選ぶ、メーカーを選ぶのは当然のことです。」

取材時にサンキライズのクレーン車が働いている現場は、九州一円はもとより、遠くは関東や東北でも稼働していた。福岡県内ならグループ会社のサンキテクでメンテナンスすればよいが、遠隔地では、そうはいかない。こんな場合にHELLO-NETがあればという。

松田様「行ったことも聞いたこともない場所で壊れたという情報が入って困ることがあります。そんな場合にHELLO-NETがあれば使える！位置情報がわかるというのは便利ですよ。それと稼働状況も把握できますし。」

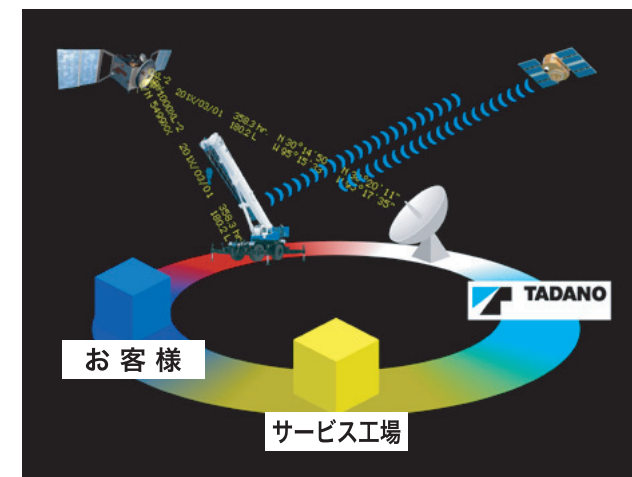


▲株式会社サンキライズ 松田 大介 様

HELLO-NET で扱う情報

- (1) テレマティクスで実機から送信される情報
位置情報、アワーメータ、走行距離、燃費、稼働記録(時間)、オーバーロードの回数など
- (2) お客様が自分で入力できる情報
部品交換・修理などの記録
車検・定期点検などのメンテナンス情報

※タダノ製品以外の保有機についても、お客様自身で情報を入力していただくことで「一元管理」が可能になります！



谷口社長「今現在のレンタル機で通信可能なHELLO-NETが活用できる機械は実はまだ5台しかありません。保有機種を一気に新型に切り替えるのは無理なので、既存機種に後付できるようにしてほしい。せめてタダノ製だけでも後付できたらいいのですがね。」

松田様「今、全ての機械はタダノシステムズ社のATACKSで管理しています。このATACKSとHELLO-NETが相互にデータ利用ができれば便利ですよ。今は、同じ情報を両方に入力しなければなりません。」

(ATACKSとは、販売管理、配車管理、車両管理などが出来るクレーン車の管理専用ソフトウェア。)



▲GR-250N

また、多くのクレーン車を保有するレンタル業ならではの意見もあった。

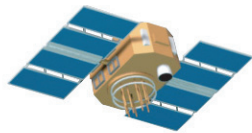


松田様「HELLO-NETは、使用者（保有者）、メーカー、サービス工場の3者で情報を共有するシステムですが、我々のレンタル事業では、使用者（顧客）と保有者（サンキライズ）、メーカー、サービス工場の4者で情報を共有活用できるようになりませんか？4者で同じ情報を共有できれば、より便利になりますし、より信頼関係も構築できると思っています。」

1台の機械のメンテナンス時期、メンテナンス履歴、稼働状況などを相互確認し、情報を共有することで、さらに安心安全なクレーン作業につながるという。1台ごとに情報を共有できる設定が可能になればとの建設的な意見を頂いた。

谷口社長「リスクマネジメントという意味で、後のHELLO-NETの進化に注目しています。盗難防止という面でも、HELLO-NETには大いに期待しています。万が一、盗難被害に遭った場合、HELLO-NETを使ってピンポイントで位置を特定できます。」

テレマティクスとは、Telecommunication（通信）と Informatics（情報科学）を組み合わせた造語で、自動車などの移動体に通信システムを組み合わせて、リアルタイムに情報サービスを提供することを一般的にさす。

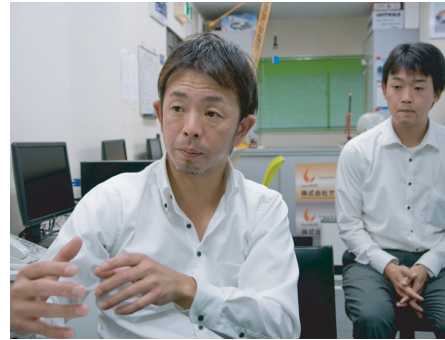


Telematics

松田様「万が一に盗難に遭った場合、機械のエンジンを遠隔操作で動かさないようにすることは出来ないでしょうか？これなら犯人もあきらめるでしょう。（笑）」

若くて柔軟な発想の松田さんには、HELLO-NETの新しい使い方が次々とイメージできているのかもしれない。まだまだHELLO-NETは発展する余地が大きい。

今後の展開について谷口社長に聞いた。



谷口社長「今までとおり、丹念にお客様の声を聴き、ニーズにしっかりとお応えするのみです。将来の社会情勢もなかなか読めない現代社会において、今までも今も会社を大きくしようとか、保有機械を増やそうとか思ったことは一度もありません。『買うから借りる』という顧客のニーズが増えればレンタル部門は更に発展すると考えています。それに伴って古い機械はどんどん海外へ輸出したい。更新が進むとHELLO-NET化も進み、顧客ニーズに迅速に応えることもできますしね。また、今の社屋は手狭になっているので、近々郊外に3000坪の新社屋とヤードを整備する計画が動いています。今後は、スタッフと力を合わせて、さらに多くの顧客ニーズに適確かつスピーディにお応えしたい。業績は、後から必ず付いてきます。」

博多祇園山笠祭りのように、若くて優秀なスタッフと一丸となって走っているサンキライズの姿があった。

HELLO-NET 便利な活用例

こんな使い方をされています。

- (1) 車検管理/クレーン検査の管理
タダノ以外の機械もまとめて管理します。
時期が近づくとメールでお知らせも！
- (2) オイルや部品交換の管理
交換間隔のムラは故障の原因！
まずはエンジンオイルとフィルター交換の記録から。
- (3) 労務管理/安全管理
稼働履歴をしてみよう。
どれくらい仕事をしたか一目瞭然！
オーバーロードの実態把握も。

取材協力 株式会社サンキライズ
代表取締役 谷口 昇、松田 大介

HELLO-NET に関する詳しいお問い合わせは
株式会社 **タダノ** 最寄りの支店・営業所まで

HELLO-NET